

実験グループ



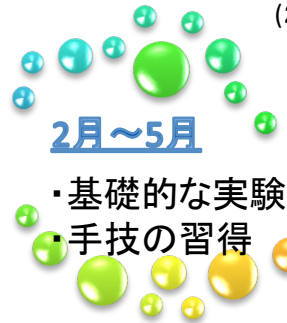
(23期生:卒業研究発表会)

～挑戦と成長～

臨床薬学研究室で、まだ解明されていないことへの挑戦と将来的な患者さんへの治療につながることにやりがいを感じながら実験を行うことができました。また、ただ実験手技を学ぶだけでなく「なぜ」「どうして」ということを考えながら実験を進めることで問題解決型の思考が身につき、自ら積極的に調べ、行動することの重要性を学びました。

英語に関しては、最初は不安がありました。留学生の方々が優しく指導してくださったり、さらに先生方の支えもあったので問題なく実験に取り組むことができました。積極的に英語に接することで、英語に対する苦手意識を克服することができました。

この1年間で実験だけでなく、その他多くの経験ができ、成長することができたと思います。



2月～5月

- ・基礎的な実験手技の習得



8月

- ・テーマの決定
- ・専門的な実験の手技習得



11月～2月

- ・専門的な実験



2月～6月

- ・専門的な実験
- ・後輩指導



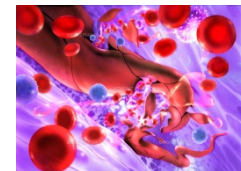
7月～8月

- ・実験のまとめ
- ・卒業研究発表

23期生研究テーマ

動脈硬化 チーム

- ・細胞質基質コンドロイチン硫酸の動脈硬化発症との関与
- ・細胞外基質プロテオグリカンのアテローム性動脈硬化症進展の役割
- ・動脈硬化におけるSCUBE2の役割の解明



糖尿病 チーム

- ・糖尿病性腎症とエンドセリンA受容体の関わり
- ・糖尿病性腎症におけるeNOSの役割
- ・STZ誘発 I 型糖尿病下肢虚血モデルマウスにおけるECE-1阻害の効果
- ・糖尿病性腎症へのエンドセリン変換酵素-1の治療効果の検討
- ・エンドセリン変換酵素の心房性ナトリウム利尿ペプチド分解作用検証に向けた安定発現細胞株の構築

